

売り上げ開業前の2.5倍



「リント」のオープン初日には8万5000人が詰めかけました=3月14日

北陸新幹線の開業から2週間が経過した3月28日の金沢駅。金沢百番街「リント」のセレク
ト店「シッパス」では、店員が
ひっきりなしに訪れる客の対応
に追われていました。トレンチ
コートのサイズや色違いの在庫
を探しに店員が倉庫に走り、シ
ヤツやスカートを手にした客が
試着室に列を作っていました。
この店は3月14日の「リン
ト」の増床オープンに合わせて
北陸に初出店しました。新幹線
の開業効果を見込み、シッパス
では地方都市での新規開店時
よりかなり高い売り上げ目標
を設定しましたが、高橋英志店
長は「目標を5割以上上回って
おり、最高の滑り出した」と満
面に笑みを浮かべます。

毎週末、バーゲン状態

金沢百番街「あん」との「ま
いもん寿司 金沢駅店」では職
人がブリやノドグロ、甘エビと
いった地元のネタを手際良く握
っていました。店内の14席がす
べて埋まり、空席待ちの行列が
店の外まで続いています。
「昼前から夜までほとんどお
客が途切れず、休む暇もない」。
この道30年以上のベテラン職人
でもこれほどの忙しさは初めて
だそうです。
土産物売り場が並ぶ一角では、
海産物や工芸品などを品定めす
る観光客らが通路を埋めていま
した。
「以前と比べ、明るく広々と
した印象が変わっていて驚いた。
海の幸や和菓子、日本酒、工芸
品などが1フロアにそろってお
り、見ているだけでも楽しい」
出張で金沢を訪れた東京・世
田谷区の会社員大山雅志さん
(33)は、3年前に来たときの様

新幹線開業に合わせて増床オープ
ンした金沢百番街「リント」は毎週末、
大入り状態です=3月28日、金沢駅

変貌、金沢駅



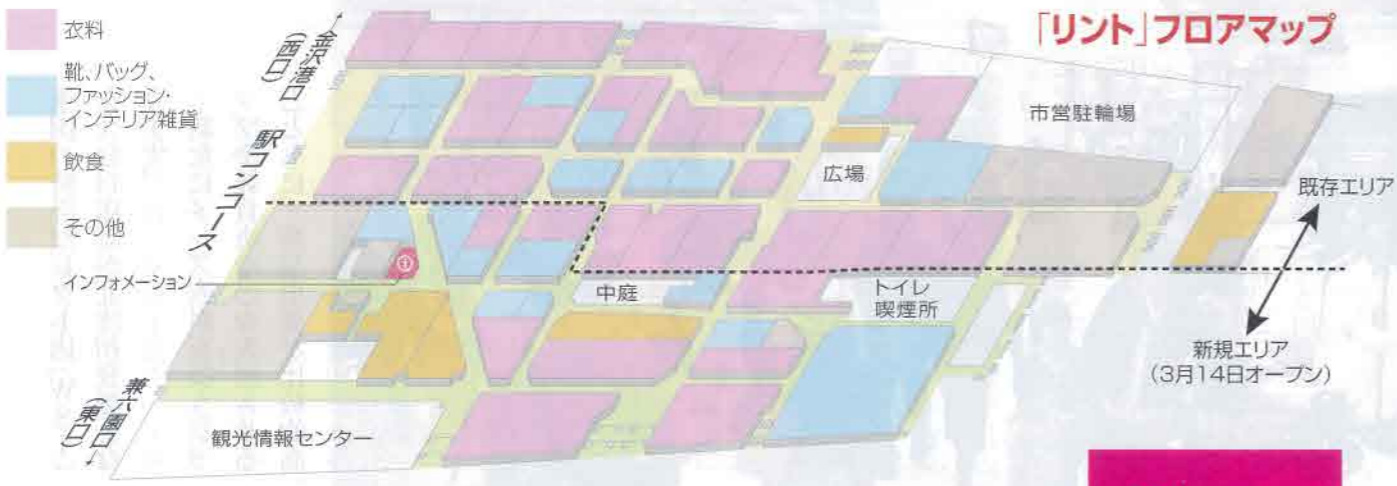
北陸新幹線の開業で、金沢駅構内の商業施設「金沢百番街」
が春爛漫の様相です。改装オープンした「リント」は毎週末バー
ゲン時のにぎわいを思わせる混雑ぶりで、「あん」とではご当地
色の濃い商品などの売り上げが伸びています。首都圏客や地元
客で沸く「駅ナカ商店街」を歩いてみました。

駅ナカ編

百番街、北陸新幹線開業で春爛漫



大勢の観光客らでにぎ
わう金沢百番街「あん」と
=3月28日、金沢駅



富山や新潟の客も照準 面積2倍、北陸初含む25店増

「凛」として生きる北陸の女性をファッションでサポートしたい」との思いから名付けられた「リント」は、コンコースを挟む北陸新幹線の改札口正面にあります。新幹線の高架下や旧「ふ

れあい館」のスペースを活用し、延べ床面積は開業前の約2倍となる1万2500平方メートルに拡大しました。施設中央部に自然光を取り入れた中庭を設け、金沢の戸室石や、千枚田や城下町をイメージした白壁、能登産アカマツなどを配して能登、加賀の風景を演出しました。

東京・杉並区の公務員男性(31)は「モダンな商業施設の中にこんな和風庭園があるなんて、東京でもあまり見たことがない。金沢らしい心配りを感じた」と笑みをみせます。

増床スペースに25店舗が店を構え、総テナント数は65店に増えました。「新幹線がやってくる」という新しいオシャレもやってくる」というキャッチコピーが示すように、国内初出店となる



「リント」の増床エリアに新設された中庭



観光客らが空席待ちの列をつくる「まいもん寿司 金沢駅前店」=3月28日、「あんと」

子を思い返し、その変化に目を丸くします。両手に提げた紙袋には、金箔をあしらったおわんや箸、押しずし、洋菓子などがぎっしり詰まっています。

初日の売り上げ1億円超

「観光客やビジネス客のみならず、地元の人々の利用も多く、とりわけ週末の客入りは想像以上だ」。金沢百番街を運営する金沢ターミナル開発(金沢市)の

辻子義則社長は、にぎわう館内を見渡し、顔をほころばせます。金沢ターミナル開発によると、北陸新幹線が開業した3月14日は「あんと」に4万4600人、「リント」に8万5000人と、これまでの休日の平均客数の2倍超の人が訪れました。その後、も人波は絶えず、「昨年最多だった旧盆の人数を上回る人が毎週末訪れている。平日も従来の週末と同等の客入りがある」と辻子社長は話します。

金沢港口(西口)の商業施設「くつろぎ館」を含めた金沢百番街全体の1日の売り上げは開業前の休日の平均である約400万円をはるかに超え、開業初日で1億100万円、1週間後の3月22日は1億500万円と2・5倍に増えています。

これまで正月以外で売り上げが1億円を超えたケースはなく、北陸新幹線開業後の活況ぶりを「週末ごとにバーゲンや初売りセールをしているような状況だ」と評するテナント関係者もいます。



観光客でにぎわう金沢ステーションデパートの土産物店=1977年8月

ステーションデパートが前身

金沢駅構内の商業施設は1954(昭和29)年に開業した金沢ステーションデパートが始まりです。現在のもてなしドーム地下にあり、飲食店などが軒を連ねたこの施設は、91年、金沢駅の高架化に伴い閉店され、高架下のスペースで金沢ターミナル開発が金沢百番街をオープンしました。

07年、スーパーや医療機関が入居する4階建ての「くつろぎ館」が営業を開始し、11年に「トレンド館」が装いを新たに「リント」として開業。昨年7月には、「おみやげ館」「あじわい館」が「あんと」に生まれ変わり、今年3月に「リント」が増床オープンして一連の改装は完了しました。

金沢ターミナル開発の辻子社長は、国鉄マンだった父が勤めていた昭和40年代後半の金沢駅の姿を今も鮮明に覚えているといいます。「居酒屋や喫茶店、書店などが並ぶステーションデパートは通勤客や近隣住民の憩いの場といった雰囲気だった。県内外の客でにぎわう現在の姿と比較すると隔世の感がある」。辻子社長は感慨深げに語ります。